

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600103		
法人名	株式会社 実善		
事業所名	京塚温泉 グループホーム 笑みの里暖輪		
所在地	群馬県中之条町入山3257		
自己評価作成日	令和2年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和2年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京塚温泉の源泉を引いており、常に入浴でき身体も心も和らぎます。自然も豊であり、春から秋にかけて庭先の草花と触れ合ったり、畑の野菜を収穫し季節を感じています。また地域の協力病院と連携し、月に1回の受診・必要に応じた医療を受ける事が出来ます。そして入居者様一人一人に合った介護が出来るように、スタッフ一同連携・相談をして入居者様の状態を把握出来る様に心掛けています。入居者様が地域の一員である事を忘れないように、今後も、夏祭りや地域合同文化祭に参加したり、地域の歌や踊りの慰問ボランティアの方に来所してもらうようにいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の日常生活における状態を理解し、一人ひとりの食事のペースや入浴のタイミング、居室作り(ベッドの位置等)に配慮した個別支援をしている。また、楽しく過ごしたい、手作業をしたいといった利用者が今できることを介護計画に盛り込み、残存能力を活かした個別ケアを実施することで、機能低下を防ぎ、利用者のやる気を引き出している。職員が何をすべきかを明確にすることで、統一したケア、質の高いサービスの提供につながる取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【その人らしい生活ができる介護】を理念としている。入居者様への支援が統一してできるように、申し送り・カンファレンスなどを行うようにしている。	新入職員には利用者の生活歴や特徴を説明し、他の職員と共有するよう指導している。趣味や活動を通して、その人らしい生活を送っていけるよう理念に沿った実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	雪が降る季節以外は、近隣を散歩し地域の方と話しをしたり、夏祭り・文化祭などに参加し交流の場が持てるように心掛けている。	地元在住の職員を介して地区の住民と連携を図っている。また、温泉に来た地元の人と挨拶を交わしたり、事業所主催の納涼祭や地域の文化祭に参加し、住民やボランティアと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の会場にて皆様に、意見をいただきサービスの向上に努めている。	隔月で開催し、入居者現況報告、現況説明、各種行事の報告や時季の議題について話し合い、意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に施設の利用状況などを相談し、協力関係を築いていくよう心掛けている。	支所の担当者に相談、報告をし、連携を図る取り組みをしている。介護保険の更新代行、認定調査の立会いはしていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマット使用は拘束である事を理解し、家族に同意を取りながら実施している。スタッフの配置状況によって、出入り口を手動にするように心掛けている。	玄関は開錠している。毎月スタッフ会議で身体拘束の勉強会を開き、意見を出し合って統一した声かけを心がけている。センサーマット使用については3ヶ月ごとにモニタリングをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で、虐待について話し理解し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要になった場合、関連施設・町の担当者 と相談し、協力して支援をしていきたいと考 えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約の際は入居者様、その家族に理解しや すいよう説明し、契約内容を十分理解してい ただき契約している。解約の際も同様に、話 し合い合意の上解約するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	苦情申し立ての説明をするように努めてい る。また、入居者様・家族様にはどのような 要望があるか、会話の中でくみ取れるよう心 掛けている。	他の利用者と仲良くやってほしいという家族 の要望を面会時に聞き、2ヶ月ごとに写真付 きの手紙を送ることになった。その返事の中 にも要望が書かれていることがあり、ケアに 反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りなどで情報を交換や相談 し、それを共有出来るようにしている。また スタッフから業務改善の提案があれば、話し 合いより良い運営が出来るように心掛けて いる。	毎月のスタッフ会議では勤続年数に関係なく 自由に意見が言える職員間の関係性があ る。入浴介助の仕方職員によって違いがあ る点を改め、統一した仕方を共有する等、提 案を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	スタッフ個々の状況を把握し、意見を聞きな がら向上心を持って働ける職場環境になる よう努めている。また状況に応じて実践を評 価したうえで昇給を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	外部の研修や、交流会には参加してもら うように促し、技術・知識・質の向上に向け実 践に繋がるように考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	町や近隣の病院のソーシャルワーカーか ら、情報交換会・交流会の案内を貰い、参加 し交流することで質の向上になるように努め ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様がいる場合は、事前にスタッフ間で情報を確認している。入居後は空間に慣れるまで言動・表情を観察し安心して生活出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様・家族様に会い、入居前の生活状況を伺い、何に困っており、何を必要としているかを確認し、それに合ったサービスが提供出来るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を伺い、それに合ったサービスの提供に努めている。入居後も希望に沿って生活できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日がマンネリ化しない様、また苦痛にならない様、嗜好に合った暮らしやすい環境を整えその人に合った接し方をするよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、生活情報の変更や食事摂取の変更などいつでも申し出てもらえるよう声を掛けている。また同じ心境に立てるよう家族様に寄り添い話しかけやすい環境を作るよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様と馴染みの人や、場所との関係性を理解し支援に努めている。	子供や親戚等の訪問があり、その訪問者が他の利用者とも知り合いという、地元ならではの馴染みの関係が継続するよう支援している。また手芸や水やり等趣味や習慣が続くよう見守っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のトラブルが起きない様、入居者様同士の性格の不一致や言動に日々注意している。また入居者様同士で助け合い、相談しあえる関係が築けるよ心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際には、終了後も相談しやすいような声掛けをするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様がどのような生活を望んでいるか入居前に確認し、希望に沿った生活が出来るようにしている。	楽しく過ごしたい、手作業をしたい等暮らし方への意向等、利用者の思いは家族の面会時に確認し、介護計画の見直しの際アセスメントし、計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や面会時に聞いた情報を共有し、その方らしい生活が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や、受診した時の情報などを記録し、情報を共有して現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人・家族・必要関係者と話し合い、意見や要望を聞いた上で本人様にとって寄り良い生活が送れるように介護計画を作成している。	利用者の力を引き出す個性を重視しモニタリングをし、3ヶ月ごとに担当者会議を開き、介護計画の見直しをしている。気づいたことを反映させ、実践のために役立つ計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や、ADL、受診時の様子など状態把握をスタッフ間で徹底しており、状態の変化などがあれば、話し合い介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が日々過ごす中で生じる様々なニーズに沿えるような柔軟なサービス提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を理解したうえで活用し、入居者様が穏やかに安心して生活できる様に心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明の時に、かかりつけ医の確認を行っている。協力病院の受診で良ければ職員対応で受診を行うと説明し、入居者様・家族様の希望を聞き適切な医療を受けられるよう努めている。	ほとんどの利用者が六合医療センターの往診を受けている。かかりつけ医への受診は家族が付き添うが、専門医や必要に応じた受診には職員が対応し、適切な受診の支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診した時は、状態把握ノートの記入を徹底し看護職員に伝達し施設内でも的確な看護が提供できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には、入院先の地域連携室と連携をとり、入居中の情報、入院先での情報などを交換し把握合い入居者様が早期に退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化・終末期には今後起こりうる状態を、本人様・家族様・協力医・地域関係者と話し合い適切な支援が出来るようにと考えている。	重症化・終末期に向けた方針がある。利用者、家族の希望があり、医師と看護師の協力と支援が受けられる等により協力医の判断で看取りは実施される。これまでも看取りの経験はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成しており、スタッフで共有している。救急車の要請手順を作成し、誰でも対応できるよう掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している小規模多機能と協力しあい避難出来るよう訓練している。京塚の公民館に避難出来るよう地域と連携している。また食糧や水の備蓄は用意している。	隣接の小規模多機能型施設と防災避難訓練を実施している。緊急時には地域の公民館への避難も想定している。備蓄品として水、米、缶詰等を用意している。	3ヶ月ごとに自主訓練が実施されているが利用者、職員の生命を守るため、訓練の実施回数を重ね、避難技術を身に付けてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人間性を尊重し、声掛け・対応をしている。また個々に過ごす時間を設け、話しを聴くなど安心して生活が出来るようにしている。	入浴時の異性介助やトイレ誘導の際は利用者の心情を理解し、尊厳を守る配慮をしている。個別ケアを心がけ、日常の場面では選択ができる機会を設け、利用者の言葉に耳を傾けるよう努めている。	年長者である利用者に対する言葉遣いや声の大きさ等について、配慮ある接遇ができるよう、職員間で再確認してほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが慌てず余裕を持って行動するよう心がける事で、入居者様が思っている事・感じている事などを言いやすい環境・人間関係を築けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に希望を聞き、希望に沿った生活が出来るように毎日取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に、美容室に訪問してもらい散髪が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、毎日の献立を掲示している。キザミ食の方には献立の説明をするよう心掛けている。お膳を下げるなど入居者様の要望がある時は一緒に片付けをしている。	主菜、副菜は配食を利用しているが、希望がある場合は利用者の食べたい物を優先し提供している。すいとん等昔ながらの献立や時季の伝統食、行事食を楽しんでいる。家族と外食することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は毎日観察し、水分摂取状況は夏場や、入居者様の健康状態により観察するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは個別に声掛けし行っている。入居者様のADLに合わせ、見守りや軽介助など個々に対応し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄動作の状態を把握し、その方に合った支援が出来るようにしています。また、状態の変化などがあった場合は、その都度検討するよう心掛けている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者の様子や時間を見計らって誘導している。自立者であっても、夜間はおむつを使用したり、職員が声かけをしている。利用者の状態に合った支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の改善・予防を心掛け、定期的な運動・水分摂取などに心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表は無く、希望時に入居者様の体調をみながら実施している。	利用者の入浴予定日は特に設けておらず、前日入らなかった利用者を優先し、当日の状態に応じて実施している。いつでも自由に温泉に入ることができ、利用者同士と一緒に入浴することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう、本人様の使い慣れた寝具の持ち込みも可能にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一同で内服薬情報を共有し、変更があった場合は申し送りや状態把握ノートに記入することで全員が把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や面会時に聞いた情報を元に、その方に合った時間を過ごしてもらえるような援助をするよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があれば、希望に沿って付き添う様にしている。また、外出する際は家族の方と連携をとり、外食や自宅に寄って来るなど希望に沿って外出が出来るような支援をしている。	季節や天候によるが、日常的には散歩や買い物に出かけ、季節ごとのドライブを楽しむこともある。家族と外食に行ったり、自宅に帰る等、利用者の希望に沿った外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出で買い物へ行く際は可能な限りスタッフが見守りながら会計を行っている。。また、毎週来所する移動販売のパン屋の買い物の際には入居者様と一緒に会計をするように心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望がある時は、家族様とも相談し希望に沿って控えている電話番号にかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窗より自然の光が入るようにし、一人一人のスペースが広くゆったりと過ごせるようにしています。また、入居者様と作成した季節の壁掛けや作品を飾ったり、春夏には一緒に取った庭先の草花を飾ったりしている。	共有空間は窓からの採光が良く、開放的で、利用者は居心地の良い席で自由に過ごしている。季節の花をかたどった手作りの作品やカレンダーの掲示、風呂場の暖簾、トイレの表示等が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合う入居者同士で同じテーブルの席にしたり、誰でも座れるベンチを設置して気持ちよく過ごせるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は、使い慣れた寝具・家具・食器などの持ち込みが可能な事を話している。また家族の写真や、ペットの写真を貼り、過ごしやすい居室になるよう心掛けている。	使い慣れた家具や寝具、衣類等身の回りの物を持ち込み、家族の写真や手作り作品を飾っている。ベッドの位置を希望に沿って変える等、自分にとって居心地の良い居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人の残存機能を理解し共有し、それを踏まえて個々に合ったケアを行うようにしている。		